

第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和6年9月5日（木）午後1時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 本館3階 大会議室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者 保坂武市長 内藤和彦教育長
中込正久職務代理者 米山祐希委員
小林啓子委員 金子初男委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 丸山英資総合戦略部長 名取藤吾教育部長
酒井厚志経営戦略課長 小田切英規教育総務課長
樋川和之学校教育課長 小野貴博学校教育指導監
杉田博一政策戦略係長 早川要子教育総務係長
清水亜香梨教育総務係員
- 7 市長あいさつ
- 8 議 題
（1）甲斐市版メタバース・スクール事業について
（2）令和6年度 日本航空学園との学官連携事業について
（3）第3次創甲斐教育推進大綱について
- 9 その他
- 10 閉 会 午後3時50分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 皆様、こんにちは。

本日は、お忙しい中、令和6年度第1回総合教育会議に、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、平素より本市の教育行政の推進に多大なるご尽力をいただきまして、心から感謝申し上げます。

この総合教育会議につきましては、教育委員の皆様と私が十分に意思の疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、様々な調整・協議を進めていくために実施するものであります。

さて、本日の議題は、「甲斐市版メタバース・スクール事業について」と、「日本航空学園との学官連携事業について」、また、「第3次創甲斐教育推進大綱について」となります。

限られた時間の中ではありますが、ぜひとも活発な意見交換をしていただき、甲斐市の教育行政が、子どもたちや保護者、地域の方々にとりまして、より良いものとなりますようご協力をお願い申し上げます。

今後も、「第2次創甲斐教育推進大綱」に掲げられました「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」につきまして、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

○議 題

(1) 甲斐市版メタバース・スクール事業について

市 長 担当から説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委 員 この甲斐市版メタバース・スクールの取り組みに関しましては、昨年度のメタバース・スクールの取り組み成果や要望等を踏まえて、甲斐ゼミナールと連携してのメタバース・スクールでの取り組みということですが、この取り組みは、各教科の習熟度やレベルに合った授業を受ける

ことができ、また、仮想空間での授業の学びなど、多様な学習機会の提供により学習意欲や自信、学力向上、不登校への対応としての成果が期待でき、望まれるところだと思います。参加人数も、中学校1年生も人数が多いですね。新しい教科の学習や、新しい環境で学習する中で、こういった場があるということは大変良いことではないかと思います。

委員

参加者が51名ということですがけれども、この中に不登校の生徒もいるようであれば、その人数の比率を教えてください。また、冬休みの実施日程が少ない気がしますので、平日にも実施し、不登校の生徒が参加できると良いのではないかと思います、その辺りについて考えているでしょうか。

事務局

まず、不登校の子どもたちへの声掛けについては、16校会をお願いをしております。ただ、今のところ、不登校に該当する子は今回の事業に参加をしていないと聞いております。

次に、夏休み・冬休みだけでなく平日にも実施というお話についてですが、今回甲斐ゼミナール様にもお願いをして、甲斐市オリジナルの内容を作っていただくという場合に、塾の先生の確保という点もなかなか難しく、私どもの希望を叶えていただくには、夏休み・冬休みの実施であれば可能ということでしたので、今回はこのような形をとらせていただいたところでございます。

委員

よく分かりました。学校へもよく呼びかけていただき、不登校の生徒もこのような場を活用できるよう、働きかけをお願いしたいと思います。

委員

費用の点はどのようになっているのでしょうか。

事務局

今年度につきましては、委託契約の締結をしております、夏・冬合わせまして、95万円前後の金額で委託をお願いしているところです。

個人負担金については、今回は夏・冬合わせまして、2千円となっております。

今回の夏季講習本来の経費としては、概ね2万円前後かかるということをお伺いしております。その中で、市と甲斐ゼミナール、個人負担ということで、それぞれ負担金額の算出をさせていただきました。前回は月額2千円で実施しましたが、今回は期間を夏・冬と限定しており、それに

合わせて、今回は新たな甲斐市版メタバース・スクールという仮想空間を活用してという中で、算出をさせていただきました。

委員 受講者から「レベルに合ったクラス分けなど、学習内容を選択できると良い」との要望があったとありますが、実際に学年を下げての学び直しや、学年を上げての先取り学習といった生徒の選択例は、どの程度あるのでしょうか。

事務局 学び直しや先取り学習を行っている利用者は、実人数で 21 人おります。先取り学習を行っている子が 7 人、学び直しを行っている子が 14 人という状況です。

委員 当初、こちらは総合戦略部の施策なので、学校教育との連携は具体的には考えられていないということでしたが、16 校会で不登校生徒へも呼び掛けていただいたということで、緩やかに学校教育とも繋がっていくことができると思います。実際に不登校の解消に繋がった事例もあるということですので、そういうことが増えると良いと思いました。

甲斐市版は講師の確保が課題ということもありましたし、夏休み中や冬休み中でなくても不登校の子が来られるようにということを考えてみると、基本的にはオークルームがそういう役割を担っていると思いますが、オンラインの方が嬉しい子に関しては、例えば甲斐市版のメタバースの中にオークルームを作ってみるなどのアイデアもあっても良いと思いました。もし不登校の子への対策という面でも考えていただければ、より柔軟に、参加しやすいような空間ができると良いと思いました。

委員 夏休み中はオークルームがお休みですので、甲斐ゼミナールの敷島教室で 5 日間、竜王教室で 5 日間、延べ 10 日間を、オークルーム教室として開けていただいております。例えば今年の実績でいいますと、敷島教室で 25 人、竜王教室で 25 人、延べ 50 人程の参加申込みがあり、実際には欠席した子どももいましたので、延べ 35 人程の子どもたちが参加し、甲斐ゼミナールの講師とのマンツーマンでの指導により、成果を上げていただいております。中には、オークルームの生徒で、別日で設定

されている竜王教室・敷島教室の日程を10日間すべて参加した子もいました。2学期になりましたが、夏休みに一定期間このような講座に参加した子どもたちは、夏休みが開けてからも、ある程度生活リズムが保たれているように感じます。講座に参加した子どもたちの多くが、学校への登校やオークルームへの通級をしているという印象を持っています。

委員

全体で100万円の経費がかかるということですが、不登校児の家庭で2千円の負担ができるのか、その辺りも検討していただきたいです。甲斐市版でなくても講座に参加したいという子もいるかもしれないので、考えを広げていただくとより良いと思います。先ほどのお話で、不登校の子が参加していないということでしたが、そのような家庭も参加しやすいように、費用の面についても今後考えていく必要があると思います。実際に成果があるようですし、飛び級のように新しい学年の勉強をできるという点は良いとは思いますが、それをさらに広げていくと費用がかかってしまいますよね。学習の習慣がつくことでさらに展望が広がるというようなお話もありましたので、まずは不登校に限定するというのも検討していただきたいです。

事務局

ご意見ありがとうございます。費用負担の面につきましては、全く取らないということは、なかなか難しいのではないかと考えております。今回の甲斐ゼミナールとの甲斐市版が実施できたことにつきましても、竜王北中学校出身で、現在ホリプロエンターテイメントの社長をされている方が、昨年度行ったメタバース事業に共感を得ていただきまして、企業版ふるさと納税という形で応援したいので、ぜひ続けてもらいたいということから、令和6年度補正予算で事業を行っているものでございます。

不登校について、家庭の事情で費用負担が難しい場合もあるというお話もございましたけれども、生活保護にある家庭の子どもたちには、福祉課において学習支援というような事業もあります。これまでは中学3年生だけが対象でしたが、令和4年度は、対象者全員が進学したということから、中学1年生・2年生も対象にしたいということで、今年度ク

ラウドファンディングでその費用を捻出することも進めております。そのような形で、甲斐市の子どもたちが皆教育を受けられるような状況にしたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

事務局

先ほどの不登校につきましては、さまざまな選択肢を示してあげることが、非常に有効な手段であると思います。以前から取り組んでおりますオークルーム、甲斐ゼミ教室、そしてメタバースということで、ここ数年で選択肢が増えております。ただ、不登校の子に接触することが非常に難しいという状況が、学校では起きております。その子どもたちにどのように選択肢を周知してあげるかというところも、学校側としては問題に挙がっているところでもありますので、オークルームを通じて、甲斐ゼミ教室を通じて、そして学校を通じて、不登校の子どもたちにも広く周知ができるような方法を考えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

市長

その他、ご意見ご質問ございますか。

一同

なし。

(2) 令和6年度 日本航空学園との学官連携事業について

市長

担当から説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

委員

今までもそうでしたが、日本航空学園の質の高い指導体制や充実した学習環境など、資源を活用して実施するこの育成事業や体験活動は、体験したことを発表する機会も設定されているということで、甲斐市の児童生徒の可能性を引き出したり伸ばしたりする取り組みであると思っております。9月1日に行われることになっていたミュージカルの延期については、私どもだけでなく、市民の方も楽しみにしていたと聞いておりますので、またご案内をよろしく願いいたします。

教育長

市内の学校にも以前チラシを配布しましたが、延期の対応については、またチラシの配布予定はありますか。

また、山縣大弐については市でも広くPRしておりますが、こういった機会を通して、さらにPRをしていきたいという思いもあります。県

の生涯学習課の講座でも、文化財担当が講師になって山縣大弐の講座を開くというようなチラシがありました。このような機会を捉えてPRしていきたいと思っておりますので、お願いいたします。

それから、航空高校については、吹奏楽など聴きますとやはりレベルが高く良いと思っております。中学生にとっての憧れの先輩像ということで、ぜひ地元の学校としても、今後も協力を続けていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局

延期のチラシの配布についてですが、航空学園と打ち合わせをした中で、プロの演出家が全員揃うのが10月末ということで、出演する子どもたちの学校行事等も踏まえると10月下旬が良いのではないかとということで、まだ確定ではございませんが、10月27日の日曜日を候補に、今後調整を図るということで聞いております。ただ、これまでは午前・午後の2回公演となっておりますが、もしかしたら1回のみという形になるかもしれないということで調整をしております。日程が決まりましたら、チラシの配布をしたいと思っております。委員さんにもまた通知をいたしますので、よろしくお願ひいたします。

委員

先ほど、竜王北中学校の卒業生がホリプロの社長として市の事業に関わっているというお話もあったように、子どもたちのさまざまな芽を出してあげて、いずれ市に貢献していただけるとありがたいですね。スポーツや芸術などさまざまな面で、学校ではできないようなプロの指導が大切であると思っております。そういう面で、ぜひとも拡大の方向で行っていただきたいと思っております。

ドローンについては、これからの新しい産業になるかもしれませんが、航空高校の強みを生かしながら考えていただければありがたいと思っております。

事務局

ご意見ありがとうございます。スポーツなど航空高校で得意分野としているものをなるべく取り上げて、技術的に甲斐市の子ども達が刺激を受けてもらいたいと思っておりますのでございます。

ドローンにつきましては、昨年度初めて実施したドローン教室は子どもたちにかなり好評で、アンケートにおいても、今後もやりたい、もう

少しレベルアップしたのも習いたいというような回答がございました。そのような意見も踏まえながら、日本航空学園と協力しながら進めていきたいと考えているところでございます。

事務局

補足をさせていただきます。課長から2事業について説明いたしましたが、1点目のメタバース、また、今回のDX推進事業については、社会情勢の中で国がDX化を推進しているということで、総合戦略部がデジタルコンテンツの活用、また、ドローンについてはSociety5.0という中で事業展開を図っているものであります。経営戦略課については、本来事業畑ではありません。いかに総合計画や創甲斐教育によって事業を実現させるかという後押しする立場ですので、今後、所管課においてどういうふうに引き継いでいくか、例えばドローンについては、市長の方で消防団にドローン隊を作っていたことや、広聴広報係における鳥の目線からの空撮を市民に伝えるという形で、事務を引き継いでおります。

については、やはりスポーツ事業にしてもメタバース事業にしても、先ほど委員さんからもお話があったとおり、いかに教育現場にこれを結びつけていくかというところですが、義務教育の中で時間がないときにとこのようなことが垣根となっております。そのような点を本会議で議論していただく中で、甲斐市独自の教育政策的なものができるとうまいと考えますので、引き続き委員の皆さんにはご提言やご意見をいただくことでバックアップしていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員

ミュージカル公演について、昨年度も子どもたちの発表を見させていただきました。子どもたちが生き生きと自己表現している姿を見て、その子どもたちが各学校へ帰って、培った表現力を発揮し、またリーダーシップを発揮するようなことが広がっていくのではないかと感じました。このような事業を学校現場に発展させていくということで、例えば、学校で演劇発表のような機会を設けている場合もあると思いますが、そのような場に日本航空学園の卓越した指導者を派遣するというようなことは可能なのでしょうか。

事務局 県の事業で「いきいき教育地域人材活用推進事業」がありまして、民間の事業所や専門の人などを呼んで、さまざまな活動に役立てています。各学校で必要としていることを調査しながら、この事業を活用していいのではないかと思います。よろしく願いいたします。

委員 学校現場も大変忙しい状況ですので、学校の希望に応じてということになるとは思いますが、意見として述べさせていただきました。

事務局 まさしく、部活動の地域移行の学習版と考えればできるのではないかと思います。例えば、学校の演劇部や高校のダンス部などで指導者を派遣するという事は、スポーツと同じ考えで可能であると思いますので、学校で希望があれば、甲斐市と日本航空学園は包括連携を締結しておりますので、いつでも派遣は可能であると思います。

教育長 ただ今のお話にもありましたように、今後、部活動の地域移行についてはスポーツ振興課が主管課となって、まずは体育部を中心に、その中で文化部でもということで、国の方では、何年か先に各市町村で必ず1つは地域でやっていくようにというガイドラインが出ておりまして、その中でまた非常に有効な要素になるかと思っておりますので、教育部でも考えていきたいと思っております。

もう1点は、先ほどのメタバースに戻るのですが、学校教育を預かる立場とすれば、学校の中で実体験として学び合うことが1番であると私も考えておりますが、集団での活動に苦手意識がある子どももいます。今では不登校のくくりの中に、「学校に行けない」ということ、「学校に行かない」ということ、また学校に関わらず「社会に出ていない」という、そのような種類があると思っております。その中で、学校としても地域社会としても、何かに繋がっている、どこかに居場所がある、そのような点を大事にして取り組む必要がありますので、これまでのDXの取り組みも参考にしながら、学校現場とDXであるこのメタバースがどのように連携を取っていいのか、また議論をしながら進めていきたいと思っております。

市長 その他、ご意見ご質問ございますか。

一同 なし。

(3) 第3次創甲斐教育推進大綱について

市長 担当から説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委員 細かいことも含めて3点ほどお願いします。まず、骨子案の目次で、第5章の基本目標1「心豊かにたくましく 未来を生きる甲斐っ子づくり」の「たくましく」と「未来」の間が少し開いているのですが、第2次の大綱ではそこに読点がありましたので、読点を無くすのであれば詰めても良いのではないのでしょうか。資料12ページでもやはり「たくましく」と「未来」の間に隙間がありますので、この2か所の隙間は必要であるのかと思いました。

2点目ですが、2月のときにも申したのですが、施策の体系のページで、基本理念の副題が主題の左にありますよね。縦書きの表現からするとこのような順序になるとは思いますが、施策の体系の構図からすると、副題が主題の右側にある方が良いのではないかと私は思います。「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」と主題があり、その右に「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」と副題が続き、それらの内容として、基本方針等が右側に繋がっていくのではないのでしょうか。

3点目ですが、施策項目と施策の内容の文言が同じものがいくつかあります。大部分は、施策項目をもう少し具体化したものが施策の内容として示されているのですが、「自立した学習者の育成」や「スポーツ施設の整備充実」、「特別支援教育の充実」、「G I G Aスクール構想の推進」辺りが、施策項目と施策の内容で同じ文言となっています。ちなみに、「特別支援教育の充実」というところで、過日、策定会議を傍聴させていただいた際にいただいた資料、47ページ「特別支援教育の推進」に9つの内容が書いてあるのですが、それらを包括してみると、学びの場の整備であったり、教師の専門性の向上であったり、また関係機関との連携強化による切れ目のない支援の充実など、いくつかまとめて、それを施策の内容として示したほうが良いのではないかと思います。

事務局 文字の間に隙間があるという点、副題を右側にした方が良いのではな

いかという点、施策項目と施策の内容が同じ文言になっているという点、また先日の策定会議の中でお示しした資料 47 ページの内容についてですが、こちらについてはまだ確定している資料ではございませんので、今後、関係機関の所属長と構成するプロジェクトチーム会議において協議検討を行い、さらに策定会議でご審議いただきながら作成して参ります。いただいた意見も十分参考にさせていただきながら、作成を進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

教育長

委員のご指摘のとおり、施策項目と施策の内容が同じ文言という点は、やはり修正をしていくべきように思いますので、そこはまた精査をしていきたいと思います。また、基本理念の副題をどちらに持っていくかということですが、右側へ流れていくという委員さんのご指摘もよく分かりますし、これを、例えば講演の垂れ幕のように考えると、主題があつて副題があつて講師の名前があつてというように、縦書きで考えると左側へ流れていきます。これを、基本理念の項目のみで考えると、左へ流れていくほうが自然ですが、全体の構図で考えると右へ流れていくという方法もあるのではないかということですので、それぞれ感じ方は違いかと思いますが、どちらの方法もあるように感じます。その点はまた事務局でご検討をお願いしたいと思います。

委員

G I G A スクール構想に関連してですが、最近、誹謗中傷や批判などのデジタルの問題が気になるところです。デジタルリテラシーに関する教育が必要であるように感じますが、それらが触れられていないと思います。例えば、「豊かな心の育成」の中にもありませんし、「G I G A スクール構想の推進」の中にもありません。SNSなどを使用する中で、やっていいこととやってはいけないことなどの教育は、これから大事になってくるのではないかと思いますので、その点についてどこかで触れていただきたいです。

また、知・徳・体の考えについて、私はあまり好きではないのですが、県や国の考えでも示されていますので、ここで流れを変えるのは難しいですね。ただ、意欲というところにも触れていただきたいです。例えば「自立した学習者の育成」のところ、意欲的な学びについてしっかり

触れてもらうことが大事ではないかと思えます。

事務局

ただ今ご意見をいただきましたリテラシーという部分については、策定会議において詳しく調整しております。その中で文言を入れるように検討していきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

委員

先日開催されました策定会議を傍聴させていただきました、山梨大学の日永教授を座長として、委員の皆さんが甲斐市の教育について議論をしている様子を見させていただきました。日永教授は、甲斐市のコミュニティ・スクールにも以前から関わっていただいた先生ですので、甲斐市の地域の教育といった視点で大綱の策定が進んでいくのではないかと期待を持って拝見させていただきました。ただ今、知・徳・体のお話がありましたが、市民アンケートの中で、学校教育で何を大事にすべきかという質問に対して、思いやりや豊かな心を育む授業・活動の充実という回答が1番多かったということで、このような市民の意見を踏まえて、策定が進んでいくのではないかと期待を持っているところです。

また、この「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」という基本理念に基づいて、策定会議で議論した中で具体的な施策が決定していくことに期待をしているところですが、資料6ページで不登校について触れられておりまして、オークルームの事業拡大については、全国的な傾向で増加ということもあります。ただ、オークルームの取り組みとしては、もちろん日々の個別指導もありますが、学校との連携や相談事業、子育て支援課等も含めた関係者会議への参加、また必要に応じて家庭訪問などの取り組みなどもしております。大綱に基づいた具体的な施策が進められると思えますが、そういった点にも期待させていただくところです。

事務局

ただ今のご意見にもありましたように、大綱を策定するに辺り、市民及び小中学生を対象にアンケートを実施いたしました。その結果も踏まえまして、今後プロジェクト会議において詳しい施策や内容等に活かしていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

事務局

先ほどからお話が出ております知・徳・体という言葉ですが、今回の新しい施策の中には特に入っておらず、今までの振り返りということで使っております。委員がおっしゃる、知・情・意・体のことですが、知

は学力、情は仲間を思い合ったり感動する心、意は自ら学んだり困難に立ち向かうこと、体は体力・健康、これは施策の内容の中に散りばめられておりまして、今回、知・情・意・体や、知・徳・体など、はっきりとした言葉を使っておきませんが、委員のおっしゃる知・情・意・体の一つ一つの意味というものは、この施策の中に含まれているという形になります。今までの振り返りの中では、そのような言葉が文科省や県でもよく使われていましたが、これから新しい時代の中で、そのような言葉はあまり使われなくなってくるのではないかということで、今回の施策の中からも抜いております。

委員

14 ページの基本方針6のところ、「誰一人取り残されず、全て人の可能性を引き出す」とありますが、「誰一人取り残さず」という表現が良いのではないかと感じました。このままの表現でも良いのですが、どちらかというところ「取り残さず」の方が、後の文章に合っているように感じました。また、基本方針8についても、文章がおかしいように感じまして、「人と人とのつながりが希薄化していると言われており」の文章と、その後続く文章のつながりに少し違和感を覚えたので、「言われています」で切ってしまった方が違和感なく読めるのではないかと思います。

また、先ほどからお話が出ています、基本理念の書き方の部分ですが、私個人の考えとしては、基本理念を1つの枠と考えると、副題が左に来る縦書きの法則に習った書き方が綺麗ではないかと思いました。

もう1点、11 ページの基本理念のところ、下から2行目の「社会人となり甲斐市内外で子育てをし」というところですが、甲斐市で育った子どもたちが「社会人となり」というところまでは良いのですが、「甲斐市内外で子育てをし」という部分が、次世代を育てるという意味で書かれているのだと思いますが、子育てをするイコール次世代を育てるということではないように思います。策定の趣旨などにも述べられているような、時代の捉え方とも少し矛盾するような気がします。今の子どもたちが受ける教育というものを重視するのであれば、甲斐市への愛着というものをしっかりと育むことで、子育てという形ではなく、社会人に

なってさまざまな形で学んだことや、市外に出て甲斐市では身につけられなかった技術や知識を持ち帰って、甲斐市を育ててくれるような大人になるという意味の方が、この大綱の趣旨に沿うのではないかと思います。「子育てをし」と表記してしまうと、型にはめるような形になってしまうように思いますので、この文言は変えた方が良いのではないかと感じました。ご検討をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

事務局 ご意見ありがとうございます。今後またプロジェクトチーム会議や策定会議等もありますので、いただいた意見を参考に検討してまいります。よろしくお願ひいたします。

市 長 その他、ご意見ご質問ございますか。

一 同 なし。

○その他

事務局 今年度の総合教育会議の予定について、ご連絡させていただきます。特に緊急の議題等がなければ、第2回の会議を令和7年2月を目安に予定しておりますので、ご出席のほどよろしくお願ひします。

○閉 会

事務局 閉会を宣する。

閉会時間 午後3時50分